

京都大学研究資源アーカイブ

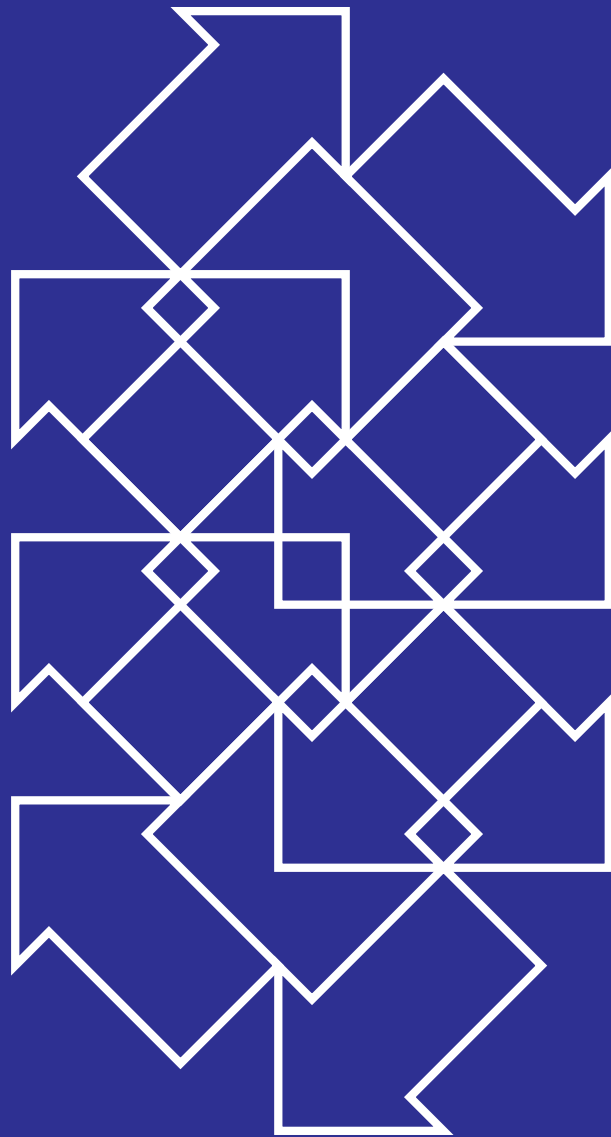
デジタルコレクション

展示コンテンツ

映像コンテンツ

2018

<http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学研究資源アーカイブとは？

京都大学研究資源アーカイブは、本学における教育研究の過程において作成・収集された各種資料を体系的に収集・保存し、新たな教育研究の資源(研究資源)として運用することを目的とした、大学全体の活動です。対象となる資料は、写真・映像・録音、フィールドノート、研究会記録、講義ノート、論文原稿など一次資料(教育研究のアーカイブ資料)です。

京都大学研究資源アーカイブは、理事を委員長とする全学的に組織された運営委員会により活動方針が決定されます。その活動方針に基づき、運営責任部局を総合博物館、連携部局を学術情報メディアセンターとし、情報環境機構の支援、各部局の協力のもと業務を行っています。

利用できる研究資源

京都大学研究資源アーカイブは、オンライン、または映像ステーションを通じて、様々な研究資源を公開しています。利用できる研究資源は、デジタルコレクション、展示コンテンツ、映像コンテンツに分けられます。

デジタルコレクションに登録されている資料(画像・映像等)は、教育研究にご利用いただけます。ただし、出版物での掲載や報道等の二次利用を希望される場合は、事前にお問い合わせください。

デジタルコレクション

p.2～

メタデータ(資料の情報)とデジタルデータ(資料をデジタル化したデータ/デジタルの資料)から構成された研究資源です。京都大学デジタルアーカイブシステム(愛称Peek)でオンライン検索・閲覧することができます。

<http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/about/introduction/search/>

Peekには、「パブリックモード」と「研究者モード」があり、研究者モードでは検索・閲覧できる研究資源に限定資料が含まれます。

「研究者モード」利用は以下のいずれかのIDが必要です。

- ・ ECS-ID(京都大学学生アカウント)
- ・ SPS-ID(京都大学教職員アカウント)
- ・ 学術認証フェデレーション(学認GakuNin)参加機関の発行ID

(ログインできない場合、所属機関の認証サービスへご相談ください)

展示コンテンツ

p.7

研究資源の活用例として、デジタルコレクションを元に作成されたオンラインコンテンツです。オンラインで閲覧することができます。

<http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/activity/application/digital-collection/>

映像コンテンツ

p.8～

一次資料として収集された映像、デジタルコレクションを元に作成された映像、研究資源の周知のために作成された映像など、研究資源アーカイブにまつわる様々な映像を指します。映像ステーション個人閲覧用ブースの端末でご覧いただけます。

映像ステーション

所在地 京都市左京区吉田本町

京都大学総合博物館1階ロビー

休館日 月曜日・火曜日(平日・祝日にかかわらず)

年末・年始(12月28日～1月4日)

京都大学創立記念日(6月18日)

夏季一斉休業日(8月第3週の水曜日)

開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

※どなたでもご利用いただけますが、博物館の入館料が必要です。



デジタルコレクション

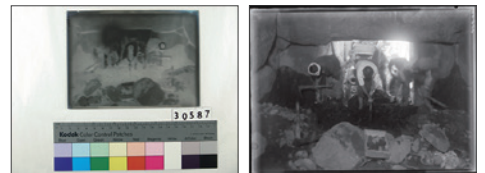
凡例 コレクションのタイトル(正式タイトル、資料の日付やその範囲の年)、資料内容の概要に続いて、次の項目を表示しています。※コレクションの正式タイトルがない場合、作成者や収集者、資料の特徴等から命名しています。

出所・作成 コレクションの作成者や所蔵者
資料年代 コレクションの中の資料の作成、収集、編集、使用、保管等の日付(年月日)の範囲
公開年 デジタルコレクションとして一般公開した年
数量 コレクションの中の資料の数、構成、大きさ等
メタデータ 登録されたコレクションやその中の資料を説明する記述データ(ここではメタデータという)の件数
注意 利用にあたっての注意事項

京都帝国大学文学部考古学教室ガラス乾板写真：石舞台古墳発掘，1933-1935.

1933年および1935年に京都帝国大学教授、濱田耕作を中心とする文学部考古学教室が奈良県と協力して実施した石舞台古墳発掘の記録写真。発掘現場だけでなく、調査の参考資料、模型、図面等の写真も含まれています。

出所・作成 京都帝国大学文学部考古学教室
資料年代 1933年～1935年
公開年 2011年
数量 写真乾板216枚、写真画像216点、現状記録画像650点
メタデータ 241レコード
注意 映像ステーションだけで閲覧できます。二次利用には、文学研究科考古学研究室の了解が必要です。



京都帝国大学文学部考古学教室16mmフィルム：石舞台古墳発掘，1933-1935.

1933年および1935年に京都帝国大学教授、濱田耕作を中心とする文学部考古学教室が奈良県と協力して実施した石舞台古墳発掘の記録映像。当時、発掘の経過を映画で記録することは珍しい試みでした。発掘現場の動きや周辺の様子をとらえています。

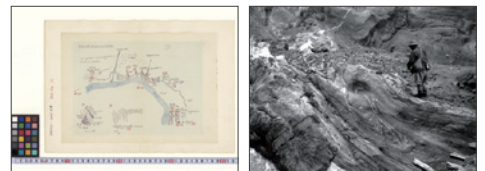
出所・作成 棚津正志・末永雅雄(撮影・編集)，京都帝国大学文学部考古学教室
資料年代 1933年(撮影)，1935年(撮影)
公開年 2011年
数量 16mmフィルム1巻(白黒，サイレント，25分11秒)，映像データ1点
メタデータ 1レコード
注意 映像ステーションだけで閲覧できます。二次利用には、文学研究科考古学研究室の了解が必要です。



京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊地質班関係資料，1955-1956.

1955年の京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊および1956年日パ合同探検隊(東部ヒンズークシ)に参加した藤田和夫(地質学)の野外調査による記録資料。写真を中心に、ルートマップ、探検日誌、探検隊の運営記録等があります。

出所・作成 藤田和夫(京都大学総合博物館蔵)
資料年代 1940年，1942年，1955年～1957年
公開年 2011年
数量 モノクロネガ収納箱1箱(ネガ151束)，カラースライドファイル3冊(スライドシート21枚)，ルートマップ
収納箱1箱(31ファイル)，関連資料2箱(原稿やスクラップブック，探検関連出版物など21点)，写真画像
3965点，現状記録画像305点
メタデータ 4116レコード



宮本正太郎資料：火星スケッチ，1955-1976.

京都大学理学部附属天文台花山天文台長を務めた天文学者、宮本正太郎による火星の観測記録。横長の用紙に、手書きで火星のようすがスケッチされています。花山天文台の将来計画草稿や地学実習案内、書籍も含まれています。

出所・作成 宮本正太郎，京都大学理学部附属天文台；京都大学大学院理学研究科附属天文台
資料年代 1955年～1976年ほか
公開年 2011年
数量 資料ケース入20件(スケッチ1510枚，資料5点ほか)，スケッチ画像1478点，現状記録画像96点
メタデータ 1508レコード



東方文化学院京都研究所調査映画フィルム：北支遊記，1934.

東方文化学院京都研究所の研究者らによる1934年8月～9月の中国、北京・北京郊外・山西省大同等の調査の記録映画。2008年春、京都大学人文科学研究所で発見された16mmフィルム4巻のうちの1巻で、フィルムの劣化が激しかったところをデジタル化により映像として復元されました。

出所・作成 長廣敏雄(撮影)，京都大学人文科学研究所
資料年代 1934年8月30日～9月17日(撮影)
公開年 2011年
数量 16mmフィルム1巻(7・1/4inch系プリキ缶入り，白黒，サイレント，15分)，映像データ1点
メタデータ 1レコード



東方文化学院京都研究所調査映画フィルム：響堂山と龍門，1936.

東方文化学院京都研究所が1936年3月～5月に実施した北支史蹟調査旅行の記録映画。もともと3巻組以上の部分と推測されます。2008年春、京都大学人文科学研究所で発見された16mmフィルム4巻のうちの1巻で、フィルムの劣化が激しかったところをデジタル化により映像として復元されました。

出所・作成 長廣敏雄・水野清一・羽館易(撮影)，京都大学人文科学研究所
資料年代 1936年4月9日～29日(撮影)
公開年 2011年
数量 16mmフィルム1巻(7・1/4inch系ブリキ缶入り，白黒，サイレント，残存16分)，映像データ1点
メタデータ 1レコード



東方文化研究所調査映画フィルム：雲岡石窟，1938.

東方文化研究所が1938年4月～6月に実施した北京・山西省大同・雲岡石窟等の調査旅行の記録映画。2008年、京都大学人文科学研究所で発見された16mmフィルム4巻のうちの2巻で、フィルムの劣化が激しかったところをデジタル化により映像として復元されました。

出所・作成 水野清一(撮影)，京都大学人文科学研究所
資料年代 1938年4月9日～6月15日(撮影)
公開年 2011年
数量 16mmフィルム2巻(7・1/4inch系ブリキ缶入り，白黒，サイレント，計35分)，映像データ1点
メタデータ 1レコード



「近衛ロンド」録音テープ資料，ca.1973-1977.

文化人類学の研究者で京都大学名誉教授の米山俊直により録音され、主として京都大学人類学研究会(通称「近衛ロンド」)の例会を録音したオープンリールのテープ。他の人類学または社会学の研究会を録音したテープも一部含まれています。

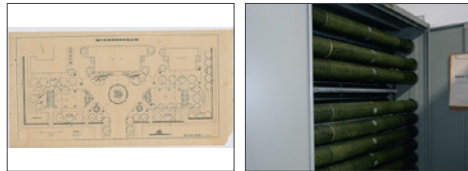
出所・作成 京都大学人類学研究会
資料年代 およそ1973年～1977年
公開年 2011年
数量 オープンリール102本，録音データ204点，現状記録画像262点
メタデータ 105レコード
注意 映像ステーションだけで閲覧できます。



京都大学農学部造園学研究室資料：庭園等図面，1895-1974.

京都大学環境デザイン学研究室に伝わる造園関係図面。京都帝国大学時代から現在まで実測・設計・収集されてきた造園学研究室(造園学教室)の活動成果です。第二次世界大戦前の名勝庭園を中心とする実測図や、戦後の大学研究室が造園設計発展の一翼を担ったことを示す設計図は、造園や建築分野における貴重な資料です。

出所・作成 京都大学農学部造園学研究室；京都大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室
資料年代 1895年6月～1974年1月作成；多くの資料は1930年～1949年
公開年 2014年
数量 図面208枚(デジタル化分)；図面保管庫-右に36筒(図面161枚)，図面保管庫-左に36筒(図面98枚)
メタデータ 232レコード



京都大学農学部造園学研究室資料：風景スライド写真，ca.1950-1974.

京都大学農学部林学科造園学講座を担当した岡崎文彬が撮影・収集した1960年代の日本全国の風景地(史跡・名勝、庭園、公園、森林、道路等)を中心とする写真です。1960年代は道路や公営住宅、観光地の開発など、造園設計の対象が拡大した時代であり、本資料には庭園の他に、これらの新しい造園設計対象の風景スライド写真が含まれます。

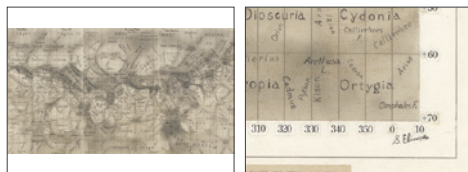
出所・作成 岡崎文彬，京都大学農学部造園学研究室；京都大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室
資料年代 1935年(撮影対象資料に記載された日付)～1974年7月12日(撮影)
公開年 2014年
数量 段ボール箱4箱；スライドファイル41ファイル；スライドシート384シート(スライド未収納含む)；スライド4313枚
メタデータ 4772レコード



海老沢火星図，1957-1959.

海老沢嗣郎は、1907年～1956年に得られた各国の観測者達の眼視観測や写真観測および自身の眼視観測を整理し、精密な火星図を製作しました。この火星図は縦約40センチ、横約20センチの画用紙3枚で構成され、従来の模様名に加えて海老沢が考案した模様名も記録されています。当時最も精密な火星図の一つとして国際的に高く評価されました。

出所・作成 海老沢嗣郎；京都大学大学院理学研究科附属天文台
資料年代 1957年～1959年
公開年 2013年
数量 台紙に貼り付けたスケッチ3枚
メタデータ 4レコード



川村多實二資料, 1902-1964.

川村多實二は、京都帝国大学で日本初となる動物生態学を講じた人物です。この資料は、川村が退官まで勤めた理学部附属大津臨湖実験所の官舎に長らく残されていたもので、2002年、総合博物館に移管されました。『動物生態学』『日本淡水生物学』『鳥の歌の科学』に代表される自身の著作や参考書・原稿・ノート・書簡・スケッチなど様々な資料が含まれます。

出所・作成 川村多實二, 京大大学生態学研究センター(京都大学総合博物館蔵)
資料年代 1902年~1964年作成; 多くの資料は1930年~1964年
公開年 2012年, (資料調査時画像)2016年
数量 3ケース, 3箱, 2括
メタデータ 475レコード



京都大学総合博物館蔵キリシタン関係資料, ca.1920-2004.

京都大学総合博物館所蔵の宗教絵画「紙本著色聖母十五玄義・聖秘跡図」(通称「マリア十五玄義図」)に関する、発見当時から詳細調査、修復過程までの写真記録です。この資料が発見された頃の写真を含むガラス乾板写真、国立歴史民俗博物館との共同研究で撮影した光学分析写真、2004年度の全面修復時の写真の三つの内容から構成されています。

出所・作成 京都帝国大学文学部; 京都大学大学院文学研究科, 京都大学文学部博物館; 岡墨光堂
資料年代 1920~30年代, 1996年度, 2004年度
公開年 2013年
数量 ガラス乾板写真154枚, 写真フィルム1707枚, 写真データ579点
メタデータ 2479レコード



藤原元典「アリチアミンに関する研究」ノートおよび関係資料, 1950-ca.1998.

かつて日本で国民病とまで言われた脚気は、ビタミンB₁欠乏に原因があると判明しても、その吸収率やコストの問題から撲滅には至らずにいました。藤原元典は、ニンニクの成分アリチンとビタミンB₁の化合物「アリチアミン」が体内でビタミンB₁に戻り、安定して吸収されることを発見しました。この資料はそのアリチアミンに関する自筆研究ノートと諸資料です。

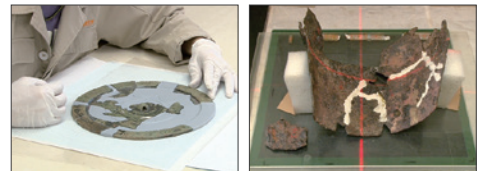
出所・作成 藤原元典(京都大学大学院医学研究科提供, 京都大学総合博物館蔵)
資料年代 1950年~1952年, 1955年~1998年
公開年 2013年
数量 研究ノート1点; 関係資料のペ101点
メタデータ 151レコード



京都府椿井大塚山古墳出土品保存修理事業映像資料, 2010-2013.

この映像資料は、2010年から2012年にかけて行われた椿井大塚山古墳出土遺物保存修理の記録映像です。京都大学では、本修理に際して、遺物が総合博物館をでるところから、公益財団法人元興寺文化財研究所で保存修理され、総合博物館にもどってくるまでの各工程を丹念に映像に残しました。

出所・作成 京都大学大学院文学研究科考古学研究室, 京都大学総合博物館
資料年代 2010年~2013年
公開年 2014年
数量 記録映像データ1141件, 映像コンテンツ5件
メタデータ 1199レコード
注意 映像ステーション、学内で閲覧できます。



京都帝国大学工学部建築学教室35mmフィルム: 実写 関東地方大震災[, 1923.]

多くの複製を生んだとされる関東大震災映画フィルムの中で本資料映像は鮮明さで群を抜きます。震災直後の都心の様子が収められ、炎と煙に巻かれていく家屋、広場に集まりひしめき合う群衆、荷物を運び出し避難する人々とその頭上に舞う火の粉まで活写され、損壊していた12階建ての浅草・凌雲閣が後日爆破処理されるシーンも含まれています。

出所・作成 大阪毎日新聞社, 京都帝国大学工学部建築学教室; 京都大学大学院工学研究科建築学専攻
資料年代 1923年9月1日(映像内容)
公開年 2014年
数量 35mm映画フィルム1点
メタデータ 4レコード
注意 二次利用には、工学研究科建築学専攻の了解が必要です。



京都大学演習林関係資料, 1928-1986.

京都大学は、1945年以前は台湾、朝鮮、樺太に演習林を有し、それら「外地演習林」と国内の演習林における写真、映像等の資料を、旧農学研究科附属演習林等を統合して発足したフィールド科学教育研究センターに伝え残しています。この資料群は、大学による演習林での施業や研究、教育、経営のみならず、演習林の当時の自然環境、風俗をも伝える貴重なアーカイブ資料といえます。

出所・作成 京都大学フィールド科学教育研究センター
資料年代 1928年~1986年
公開年 2015年
数量 ガラス乾板 176枚, 紙焼き写真(写真帳5冊(写真232枚)保存写真カード19枚), 16mmフィルム等50巻
メタデータ 631レコード



堀田満映像資料：映画フィルム、1960-ca.1982.

堀田満(植物学)の野外調査等に際して撮影され保管されていた16mm映画フィルム群。多くは1970年代中頃から1980年代はじめにかけて撮影され、1960年のトンガ王国調査に関する資料を含みます。主要な撮影対象は、大阪高槻、淀川、京都北山、芦生、木曾、御岳、マレーシア、ボルネオ、インドネシア、スマトラ、ザイールなどの環境、植生、生態、民俗と自然です。

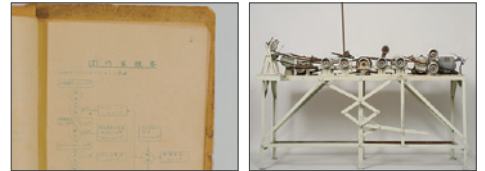
出所・作成 堀田満; 堀田満, 長谷川高士ほか(撮影)
資料年代 1960年6月~1982年頃
公開年 2015年
数量 ダンボール箱2箱, 16mmフィルム75巻
メタデータ 87レコード



京都大学化学研究所「ビニロン」関係資料[, ca.1942-1943].

「ビニロン」は、国内技術で初めて作られたポリビニルアルコール(PVA)を主体とする世界で2番目、日本では最初の合成繊維で、櫻田一郎教授(当時工学部、化学研究所兼任)らにより1939年に発明されました。京都大学化学研究所の伝える「羊毛様合成一号製造工場計画書」と「ビニロン紡糸実験装置」は、2012年に公益社団法人日本化学会より「化学遺産」に認定されました。

出所・作成 京都大学化学研究所
資料年代 およそ1942年~1943年
公開年 2015年
数量 冊子1点, 装置一括
メタデータ 3レコード



京都大学学士山岳会京都大学学術探検登山資料, ca.1931-1970.

京都大学学士山岳会(Academic Alpine Club Kyoto)は、1931年に設立されこれまでに数々の学術探検登山派遣の母体となってきました。大興安嶺探検隊やカラコラム・ヒンズークシュ学術探検隊などをはじめとする京都大学学術探検登山資料の多くは、京都大学学士山岳会で保管されてきました。資料の中には、文書・写真・映像・学術探検登山用具などが含まれます。当時の京都大学学術探検登山の活動の軌跡を記す貴重な資料といえます。

出所・作成 京都大学学士山岳会(AACK)
資料年代 1902年~1970年
公開年 2016年
数量 [全体は研究室約1室分, うち写真441枚, 文書類(学内限定)289件]
メタデータ 1343レコード



河合雅雄資料：霊長類学関係, 1959-1975.

幸島のニホンザル研究に端を発し、京都大学の研究者たちが開拓した霊長類学、その開拓者の一人、河合雅雄名誉教授のもとに残された資料。世界で初めて撮影・収録された野生状態でのマウンテンゴリラの映像、個体識別によって捉えられたゲラダヒビの社会性・社会行動、自然交配でのハイブリッドヒビについての映像・画像等を含み、調査地域であるアフリカの民俗等も記録されています。

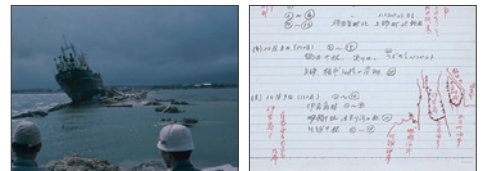
出所・作成 河合雅雄, 吉場健二
資料年代 1959年~1975年(調査時期による範囲), 主年代は1970年代
公開年 2016年
数量 ネガフィルム720本, スライド6800枚, 16mmフィルム10巻等
メタデータ 4853レコード



京都大学防災研究所伊勢湾台風高潮被害調査資料, 1959, 2010.

1959年の伊勢湾台風による被災状況を調査した記録資料。おもな資料は、被災直後に京都大学防災研究所助教授の岩垣雄一が撮影した記録写真と、2010年に同研究所教授の間瀬肇が調査地を再訪して撮影した記録写真。そのほかに調査計画を綴ったフィールドノートや調査成果として作成した図表も含まれます。被災と修復の記録から約半世紀の被災地の変化を知ることができます。

出所・作成 岩垣雄一, 間瀬肇(京都大学総合博物館蔵)
資料年代 1959年, 2010年
公開年 2017年
数量 35mmポジフィルム131点(スライド・シート8点), JPGデータ197点, フィールドノート4枚, 地図1枚, 35mmネガフィルム35点(フィルム・シート1点), 紙焼き写真12枚
メタデータ 377レコード



京都大学総合博物館文化史資料：沖縄関係ガラス乾板写真，1932.

京都帝国大学考古学研究室が1932年6月に実施した、琉球崎樋川貝塚遺跡、琉球瓦、琉球勾玉に関する調査の記録資料、および同年10月の同大学文学部国史研究室による沖縄九州見学旅行で撮影された集合写真等。前者は京都帝国大学文学部講師であった島田貞彦による調査時のものと推測され、一部の写真は島田が残した論文での使用が確認されています。昭和初頭の沖縄をとらえた貴重な資料群です。

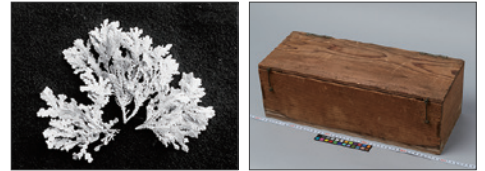
出所・作成 島田貞彦，京都帝国大学考古学研究室（京都大学総合博物館蔵）
資料年代 1932年
公開年 2017年
数量 ガラス乾板写真92枚
メタデータ 100レコード



遠藤吉三郎海藻標本ガラス乾板写真，1901-1917.

このコレクションは、日本の海藻学の先駆者で札幌農学校（後の東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学）教授をつとめた遠藤吉三郎博士が、海藻研究のため1911年から1914年にかけてイギリス、ドイツ、ノルウェーに留学した際に、各地の博物館に保管されている海藻標本（日本産のものや、その比較のための標本など）を撮影したガラス乾板写真です。その他に、1901年、カナダ バンクーバー島で採集した海藻標本、1917年頃までに各地で採集された生標本写真、採集場所の風景写真なども含まれます。

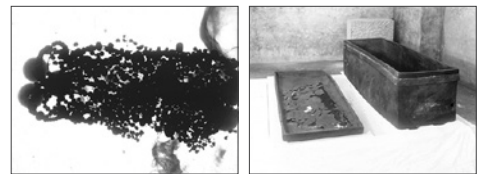
出所・作成 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所；遠藤吉三郎，京都帝国大学理学部瀬戸臨海研究所
資料年代 1901年～1917年
公開年 2018年
数量 ガラス乾板177枚；木箱1
メタデータ 198レコード



京都大学考古学研究室写真：阿武山古墳調査，1934，1987.

大阪府高槻市阿武山古墳の1934年の発掘調査に際し、京都帝国大学文学部考古学教室および理学部附属阿武山地震観測所（志田順博士）により撮影された写真資料。腐朽せずに出土することがきわめて稀な夾紵棺の貴重な出土状況記録であり、原資料が再埋葬されている現況において最も重要な二次資料です。また、レントゲンフィルムは日本考古学にX線が利用された最初の事例であり、学史的にもきわめて重要です。考古学研究室保管のガラス乾板14枚以外の資料は地震観測所で保管されていましたが、1982年に再発見された後、1987年に修復されました。

出所・作成 京都大学大学院文学研究科考古学研究室；京都帝国大学理学部附属阿武山地震観測所，京都帝国大学文学部考古学教室
資料年代 1934年，1982年～1987年
公開年 2018年
数量 ガラス乾板写真36枚，プリント写真13枚，レントゲンフィルム11枚
メタデータ 67レコード



京都大学人文科学研究所写真：阿武山古墳調査，1934.

大阪府高槻市阿武山古墳の1934年の発掘調査に際し、東方文化学院京都研究所の羽館易により撮影された写真資料。対象資料は、腐朽せずに出土することがきわめて稀な夾紵棺の貴重な出土状況記録で、原資料が再埋葬されている現況において、最も重要な二次資料です。

出所・作成 京都大学人文科学研究所；東方文化学院京都研究所・羽館易（撮影）
資料年代 1934年
公開年 2018年
数量 紙焼き写真20枚，紙焼き写真貼付け台紙7件
メタデータ 28レコード



上山春平研究資料，1807-2002（主年代1933-2002）.

哲学者の上山春平（1921-2012）による研究活動の記録。おもに1933年から2002年に作成または収集された資料で、手稿、ノート、スクラップ、複写物、書簡、写真等が含まれます。資料を区分する研究テーマ（「カント研究」「憲法草案」「照葉樹林文化」「如意寺」等）や時代（「高校時代」「大学時代」「田辺時代」「岡崎時代」等）は、上山春平の思考のあゆみを辿るヒントとなります。このうち、未刊行論考は本事業で初めて公開となる資料です。また、「人類学」や「アフリカ研究」等の1960年代の京都大学における新たな研究領域の開拓の記録や、研究者（今西錦司、牧康夫、山下正男、堀正人、田岡宏、林巴奈夫、福永光司、辻村喜一、岡村圭真）との書簡等は、個人研究の資料とは異なるかたちで、当時の研究の様子を多面的にいまに伝えます。

出所・作成 上山春平
資料年代 1807年～2002年（主年代1933年～2002年）
公開年 2018年
数量 約1600件（段ボール箱20箱）
メタデータ 1629レコード



石舞台古墳 発掘の記録

2011年3月公開

石舞台古墳は、墳丘上半の封土が失われ、巨石を用いた横穴式石室が剥きだしのままで存在してきた珍しい古墳です。昭和8(1933)年、京都帝国大学濱田耕作教授を中心とする調査団が、奈良県との共同事業として石室の発掘を行い、その2年後には、埋もれた墳丘裾、周溝、外堤など、石室周辺の遺構を発掘しました。この発掘を記録したガラス乾板と16mmフィルムをWEB展示しています。
<http://exhibit.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/ishibutai/>

調書作成：京都大学文学部博物館実習受講生／データ入力・校正：林晃弘(京都大学大学院文学研究科修士1回生／平成21年度)、谷徹也(京都大学大学院文学研究科修士1回生／平成22年度)／データベース分類・整備：阪口英毅(京都大学大学院文学研究科)／メタデータ編集・調整：池田素子、山下俊介、五島敏芳(京都大学総合博物館)／展示コンテンツ制作：元木環(京都大学学術情報メディアセンター)／総括：岩崎奈緒子(京都大学総合博物館)／協力：京都大学文学部考古学研究室／Webサイト作成：上田寛人(coban.lab)、明天堂株式会社



動きつづける大陸

2011年3月公開

1955年、京都大学は戦後初の海外学術探検隊をカラコルム・ヒンズークシに派遣しました。当時の地図・写真・日誌などを用いて、未知の領域に挑戦する学術探検の世界を紹介したWEB展示です。
<http://exhibit.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/karakoram/>

資料提供・書籍監修：藤田和夫(断層研究資料センター)／コンテンツ企画・制作：元木環(京都大学学術情報メディアセンター)、山下俊介(京都大学総合博物館)／書籍デジタル化：谷浩志、中村良太(KRAFTY DESIGN)／Webパンフレット制作・Webページデザイン、ページ作成：丸善株式会社学術情報ソリューション事業部ネットソリューションセンター／Webページ作成、ページ調整：上田寛人(京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室)



1956-1976 宮本翔太郎の火星スケッチ

2013年4月公開

花山天文台第3代台長、宮本正太郎博士による火星の観測スケッチ。20年にも及ぶ眼視観測によって得られた火星の表面は、鉛筆の濃淡によって3000カットのスケッチに固定されている。宮本博士は、長年の観測によって、火星表面の地形を正確に把握するだけでなく、火星に大気の大循環があることを発見し、新しい学術分野である火星気象学を開拓した。その火星スケッチをWEB展示しています。
<http://exhibit.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/mars/>

監督・監修：柴田一成、前原裕之(京都大学理学研究科附属天文台)／富田良雄(京都大学理学研究科宇宙物理学教室)、岩崎恭輔(京都学園大学)、大野照文、五島敏芳(京都大学総合博物館)／資料提供：松本由紀子／コンテンツ用データ作成・整備：池田素子、稲盛祐子、神近智子、長谷川由起(京都大学総合博物館)／コンテンツ企画・制作：元木環(京都大学学術情報メディアセンター、情報環境機構)、山下俊介(京都大学総合博物館)／ビューワー開発：有限会社エムエーシー／Webページ制作・デザイン：株式会社FIELD



近衛ロンド

2011年3月公開

近衛ロンド(=京都大学人類学研究会)は、1964年秋、今西錦司・梅棹忠夫がリーダーとなって始まった人類学の研究会です。研究会は1995年頃まで開催され、分野を超えて多くの研究者が参加していました。キーワードや日付から、その開催記録を閲覧できるWEB展示です。
http://exhibit.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/konoe_rondo/

監修・協力：伊谷樹一、梶茂樹(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)、松田素二(京都大学大学院文学研究科)、松村圭一郎(京都大学大学院人間・環境学研究科)／テープ資料調査・整理・メタデータ編集：池田素子、山下俊介、稲盛祐子、神近智子、五島敏芳(京都大学総合博物館)／録音データ変換・調整等：高橋三紀子(京都大学学術情報メディアセンター)／展示コンテンツ制作：元木環(京都大学学術情報メディアセンター)／テープ資料デジタル化：株式会社堀内カラー／Webサイトデザイン・ページ作成：上田寛人(coban.lab)、明天堂株式会社、菱川拓郎(ネットコル・クリエイティブ)



アフリカへの道

9分29秒／日本語
2008年10月公開



1958年に、京都大学の今西錦司と伊谷純一郎は人類進化解明の鍵を握るゴリラやチンパンジーの調査地を求めて、はじめてアフリカ大陸を訪れた。それから半世紀に及ぶアフリカ研究の歴史を振り返り、日本における霊長類学、生態人類学、文化人類学、先史人類学、そしてアフリカ地域研究の展開をたどる。

企画：市川光雄(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／構成：市川光雄、分藤大翼(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／編集：分藤大翼／作図：成澤徳子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／ナレーション：菱田盛之／監修：市川光雄、伊谷樹一(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／協力：国立民族学博物館、京都大学アフリカ地域研究資料センター／資料提供：伊谷純一郎、市川光雄、河合雅雄、川瀬慈、吉良竜夫、重田眞義、孫曉剛、中務真人、西田利貞、松田素二、山極寿一、端信行、国立民族学博物館、京都大学霊長類研究所、京都大学総合博物館、京都大学学士山岳会

アフリカ類人猿研究史

9分49秒／日本語
2008年10月公開



京都大学によるアフリカ霊長類の研究は、タンガニイカ湖畔に棲息するチンパンジーの観察を中心として、知られざる大型類人猿の生態や社会構造など、人類進化の謎を解明する貴重な研究資料を積み上げていった。本番組では、地域によって異なるチンパンジーの文化を紹介しながら、類人猿研究の歩みを概観する。

企画：西田利貞(京都大学名誉教授)／構成：西田利貞、座馬耕一郎(株式会社社原生物化学研究所類人猿研究センター)／編集：座馬耕一郎／音楽：Sitwa Juma Hassani／ナレーション：菱田盛之／監修：西田利貞／協力：古市剛史(京都大学霊長類研究所)、京都大学霊長類研究所、京都大学アフリカ地域研究資料センター、財団法人日本モンキーセンター／資料提供：伊谷純一郎、上原重男、加納隆至、座間耕一郎、杉山幸丸、西田利貞、保坂和彦

中央アフリカの森の民

9分36秒／日本語
2008年10月公開



世界第2の規模をもつアフリカの熱帯雨林。その中心部にひろがるコンゴ盆地には、ピグミーと呼ばれる狩猟採集の民が暮らしている。多様な森の恵みに依存したユニークな文化や、エジプト古王朝の時代から「神の踊り子」として知られていた卓抜なパフォーマンスに惹かれた研究者たちの足跡をたどる。

企画：市川光雄(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／構成：市川光雄、分藤大翼(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／編集：分藤大翼／作図：近藤史(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／ナレーション：菱田盛之／監修：市川光雄／協力：京都大学霊長類研究所、京都大学アフリカ地域研究資料センター／資料提供：市川光雄、小松かおり、服部志帆、分藤大翼、京都大学霊長類研究所

アフリカでの古人類学調査

7分14秒／日本語
2008年10月公開



2000万年を超える類人猿の歴史のうち、これまで見つかった化石類人猿の数は、実際にあらわれた種類の数パーセントにも満たない。化石類人猿がどのように進化し、人類やチンパンジー、ゴリラを生み出すに至ったかを明らかにすることは、文字通り点と点との間を線で結ぶ作業である。より確かな証拠を求め、ケニアの灼熱の大地で古人類学者の地道な発掘作業が続けられている。

企画：中務真人(京都大学大学院理学研究科)／構成：分藤大翼(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／編集：成澤徳子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／作図：菱田盛之／ナレーション：中務真人／監修：京都大学アフリカ地域研究資料センター／協力：石田英貴、伊谷純一郎、國松豊、中務真人、中野良彦、山本亜由美

東アフリカ乾燥地域の 牧畜社会

7分53秒／日本語
2008年10月公開



アフリカ大陸にひろがる乾燥地域には、家畜に依存して生活する牧畜民の社会が分布している。京都大学では1961年からタンザニア、ケニア、エチオピア、スーダンなどの牧畜社会において、長期にわたるフィールドワークを実施して研究成果を世界に発信してきた。本番組ではこの歴史をたどるとともに、ケニアの牧畜民レンディエールの生活を紹介する。

企画：市川光雄(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／構成：市川光雄、分藤大翼(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／編集：分藤大翼／作図：成澤徳子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／ナレーション：成澤徳子／監修：市川光雄、伊谷樹一(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／協力：国立民族学博物館、京都大学アフリカ地域研究資料センター／資料提供：伊谷純一郎、市川光雄、河合雅雄、川瀬慈、吉良竜夫、重田眞義、孫曉剛、中務真人、西田利貞、松田素二、山極寿一、端信行、国立民族学博物館、京都大学霊長類研究所、京都大学総合博物館、京都大学学士山岳会

アフリカ農耕民の世界 —ミオンボ林の農耕

13分42秒／日本語
2008年10月公開



1960年代にはじまったアフリカ農耕民社会の研究は、農業が媒介する自然・経済・社会との関係性を探りながら、伝統的な農耕社会の深奥に迫っていった。その研究基盤は、現代アフリカの発展の道を構想する実践的な研究へと受け継がれている。本番組では、乾燥疎開林(ミオンボ林)帯に焦点をあて、農耕民研究が歩んできた道のりを紹介する。

企画：伊谷樹一(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／構成・編集：吉光清隆／作図：成澤徳子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)、近藤史(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)／音楽：奥野哲也(T-BORN)／ナレーション：津田英治／監修：伊谷樹一／協力：国立民族学博物館、京都大学アフリカ地域研究資料センター／資料提供：伊谷樹一、伊谷純一郎、岡啓介、掛谷誠、金子守恵、近藤史、四方篤、末原達郎、杉山祐子、端信行、平井將公

アフリカ都市研究の歩み

7分33秒／日本語
2008年10月公開



人間の生活のダイナミズムを人類史的に捉えるためには、狩猟採集や農業、牧畜といった一次的生業のみならず、都市世界における人々の営みへの視点が必要である。京都大学のアフリカ都市研究は1960年代以来、ユニークな視点と方法によって日本のアフリカ研究を牽引するとともに、国際的にも高い評価を得てきた。

企画：松田素二（京都大学大学院文学研究科）、川瀬慈（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）／構成・編集：松田素二、川瀬慈／作図：成澤徳子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）／選曲：川瀬慈／ナレーション：菱田盛之／協力：国立民族学博物館、京都大学アフリカ地域研究資料センター／資料提供：川瀬慈、末原達郎、須田征志、孫曉剛、鶴田格、日野陽也、松田素二、国立民族学博物館

動きつづける大陸

13分09秒／日本語
2008年10月公開



1955年、京都大学カラコラム・ヒンズークシ探検隊に参加した地質学者藤田和夫は、灼熱の峡谷から長大な氷河まで踏査し、地質データを記したルートマップを作成した。藤田は翌年の探検にも参加し、カラコラム・ヒンズークシ地域の境目を探すが…。本番組では、フィールドワーカーの探検精神と発想を、モノローグ調の物語を通して追体験する。

企画：石川尚人（京都大学大学院人間・環境学研究科）、山下俊介（京都大学総合博物館）／構成：山下俊介／映像：南隆雄／サウンド：ウエヤマトモコ／ナレーション：山崎彰久／監修：藤田和夫（大阪市立大学名誉教授、断層研究資料センター）／協力：稲田多恵子（断層研究資料センター）、断層研究資料センター／参考文献：藤田和夫『アルプス・ヒマラヤからの発想』（朝日新聞社、1992）、藤田和夫監修『動きつづける大陸～藤田和夫のカラコラム・ヒンズークシ探検～』（『京都大学フィールド映像アーカイブ・センター成立準備』委員会、2007）／資料提供：藤田和夫

道は、ひらける

一石井米雄と東南アジア研究

13分42秒／日本語
2008年10月公開

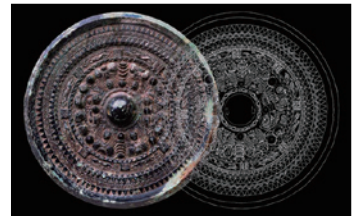


東南アジア、とりわけタイの研究に人生を捧げてきた石井米雄。1963年に誕生した京都大学東南アジア研究センターを世界的に類を見ない地域研究機関へと飛躍させた。京都で東南アジア地域研究が始まってから半世紀、いくつもの理論や仮説が生まれた。地域に根ざし、現地語を憶え、文理協働で地域研究を行うことの重要性を説いた石井米雄が、東南アジア地域研究の過去と現在を熱く語る。

企画：柴山守（京都大学東南アジア研究所）／構成・編集：柳原秀年／撮影：葛西知伸（株式会社小輝日文）／音声：渡部仁史（株式会社小輝日文）／音楽：柳原秀年／整音：寺坂昭一郎／本編集：大目象一（株式会社モイ）／ナレーション：あたか誠／制作統括：大竹真二（株式会社モイ）／監修：石川登、米澤真理子、河合友子（京都大学東南アジア研究所）／協力：林行夫（京都大学地域研究統合情報センター）／参考文献：石井米雄『道は、ひらける』（めこん、2003）、『地域研究のあゆみ～東南アジア研究センター 35年史～』（京都大学東南アジア研究センター、2002）／資料提供：石井米雄、石川登、柴山守、京都大学東南アジア研究所、京都大学地域研究統合情報センター、京都大学大学文書館／制作協力：株式会社モイ

三角縁神獣鏡

10分46秒／日本語
2008年10月公開

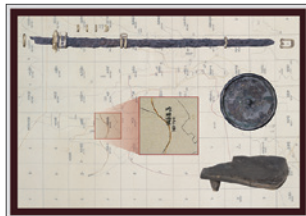


三角縁神獣鏡は、古墳時代の歴史世界を再構成する際の重要な考古資料であるとともに、その豊かな表現が注目を集め続けてきた。1953年に樺井大塚山古墳から出土した32面以上もの鏡群は、三角縁神獣鏡を代表するものの一つである。現在は京都大学総合博物館に収蔵されている樺井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡の多様な表現と魅力を、鏡のトレースイメージとともに紹介する。

企画：山中一郎（京都大学総合博物館）／構成・編集：岩倉正司、高橋三紀子、元木環（京都大学学術情報メディアセンター）、山下俊介（京都大学総合博物館）／サウンド：今井健太郎／協力：阪口英毅（京都大学大学院文学研究科）／参考文献：京都大学文学部考古学研究室編『樺井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』（京都大学文学部、1989）、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・京都大学・東京新聞編『大古墳展』（東京新聞、2000）／資料提供：京都大学総合博物館／制作協力：京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室

征夷大將軍 坂上田村麻呂の墓

9分03秒／日本語
2008年10月公開



1919年に発見された山科西野山古墳は、国宝を含む豪華な副葬品にもかかわらず、その被葬者が永く明らかではなかった。しかし、古地図・古文書、現在の地形といった資料や情報を横断的・総合的に研究した結果、征夷大將軍坂上田村麻呂の墓である可能性が極めて高いと2007年に発表され、大きな話題となる。京都大学の研究者による墓同定の研究を追う。

企画：山中一郎（京都大学総合博物館）／構成：山中一郎、山下俊介（京都大学総合博物館）／編集：吉光清隆／音楽：奥野哲也（T-BORN）／ナレーション：有田洋之／監修：山中一郎／協力：吉川真司（京都大学大学院文学研究科）／参考文献：上原真人編『皇太后の山寺～山科安祥寺の創建と古代山林寺院～』（柳原出版、2007）／資料提供：京都大学総合博物館、東京大学史料編纂所、産経新聞社、矢先稲荷神社

無の哲人、 禅の思想から日本哲学へ ：西田幾多郎

11分16秒／日本語
2008年10月公開



仏教、とくに禅への深い理解と西洋哲学の積極的な受容を通して、日本の哲学の礎を築いた。「純粹経験」論や「場所」の思想を通して、主観・客観の対置から出発する西洋哲学の枠組みそのものを批判した。その枠組みの上に築かれた科学技術文明がさまざまな問題に直面する現代において、欧米でも西田の哲学に対する関心が増大している。

企画：美濃澤彦（京都大学学術情報メディアセンター）／構成・編集：土佐尚子（京都大学学術情報メディアセンター）／撮影：藤岡和也（京都大学学術情報メディアセンター）、大野邦久（京都大学経営管理大学院）、北野貴章（京都大学大学院経済学研究科）／技術：Wu Xiaofeng（京都大学学術情報メディアセンター）／イラストレーション：村田真敏／音楽：近藤等則／ナレーション：松岡正剛（編集工学研究所）／監修：藤田正勝（京都大学大学院文学研究科）、松岡正剛／協力：一燈園、株式会社燈影舎、国泰寺／資料提供：石川県西田幾多郎記念哲学館、京都大学オープンコースウェア

創造的人間、 東洋的思考から理論物理学へ ：湯川秀樹

13分02秒 / 日本語
2008年10月公開



湯川の間接理論発見に見られるように、湯川の発想には、他の科学者に見られない独創性がある。どのような環境で、研究の創造力を高めていったのか、創造力の源はなにか。世界のノーベル賞物理学者達との交友や、家族環境、そして東洋思想の影響など湯川の研究の背景にある創造性を探る。

企画：美濃薄彦（京都大学学術情報メディアセンター）／構成：土佐尚子（京都大学学術情報メディアセンター）／編集：藤岡和也（京都大学学術情報メディアセンター）、大野邦久（京都大学経営管理大学院）／作図：Wu Xiaofeng（京都大学学術情報メディアセンター）／ナレーション：松岡正剛（編集工学研究所）／監修：松岡正剛／協力：貝塚茂樹ご遺族、真鍋俊照、京都大学オープンコースウェア、京都大学人文科学研究所、奈良女子大学附属図書館、禅林寺、子嶋寺、岩波書店、中央公論社／資料提供：京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室、京都大学オープンコースウェア

湯川秀樹—その人—

9分30秒 / 日本語
2008年10月公開

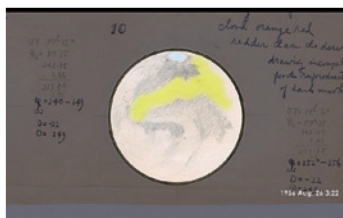


日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川博士は、1949年、中間子理論の発見をはじめ、原子核・素粒子物理学の発展に大きな功績をあげた。

制作・著作：湯川・朝永生誕百年記念展実行委員会／制作協力：山陽映画株式会社／提供：京都大学基礎物理学研究所，2006

変動する宇宙の姿 —京都大学の宇宙世界—

14分39秒 / 日本語
2012年公開

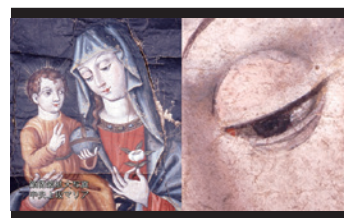


「1956年8月20日夕方、京都大学花山天文台の12インチクック望遠鏡を火星に向けていた天文台台長、宮本正太郎の目が輝いた。火星の南半球に、きらきら光る白い雲があらわれたのである。」本番組では、京都大学理学部附属天文台や宇宙物理学教室に残るさまざまな学術資料をもとに、「変動する宇宙の姿」を描きつづける京都大学の宇宙研究の歴史と展望を紹介する。

企画：大野照文（京都大学総合博物館）、柴田一成（京都大学大学院理学研究科附属天文台）、冨田良雄（京都大学大学院理学研究科）、岩崎恭輔（京都学園大学）／撮影・編集：南隆雄、池田泰教／音響効果：奥野哲也（T-BORN）、三平（T-BORN）／ナレーション：成金屋清雷／協力・資料提供：海老沢嗣郎、松本由紀子、藤原洋（IRI研究所）、時政典孝（兵庫県立西はりま天文台）、前原裕之（京都大学大学院理学研究科附属天文台）、富岡知美（京都大学大学院理学研究科附属天文台）、ナノオプトニクス研究所、ナガセインテグレーション、ナノオプトニクス・エナジー、兵庫県立西はりま天文台公園、京都大学大学院理学研究科附属天文台、京都大学大学院理学研究科

マリア十五玄義図の探究

22分52秒 / 日本語
2017年3月公開



1931年、マリア十五玄義図は大阪茨木市の山間の村で発見された。民家の屋根裏で見つかったこの美しい絵画は、厳しい弾圧にあっても信仰を捨てなかった江戸時代の人びとの思いのこもった希有な作品である。1990年代の後半、その存在に心うたれた研究者たちは、絵を守り抜いた人びとと同じ情熱を持って、すべてを記録し研究した。彼らを突き動かしたのは何なのか。その背景に迫る。

制作：京都大学総合博物館／企画・構成：岩崎奈緒子、山下俊介（京都大学総合博物館）／撮影・編集：木村隆志／監修：岩崎奈緒子／出演：神庭信幸（東京国立博物館）、小島道裕（国立歴史民俗博物館）、岩崎奈緒子／協力：五島敏芳、池田素子、奥田タ子、高井多佳子（京都大学総合博物館）、京都大学研究資源アーカイブ

京都大学

15分14秒 / 日本語
2008年10月公開



京都大学の概要（歴史、教育・研究、留学生生活）を紹介する映像。

制作・提供：京都大学広報センター／協力：株式会社映像企画

万能細胞（ダイジェスト版）

17分05秒 / 日本語
2008年10月公開



京都大学再生医科学研究所による「万能細胞」研究を紹介する映像。

制作・提供：京都大学再生医科学研究所

Save the Earth and Humanity —京都大学 生存圏研究所の挑戦

29分09秒 / 日本語
2008年10月公開



京大生生存圏研究所の研究活動を紹介します。

制作・著作・提供：京大生生存圏研究所、科学技術振興機構／制作：KBS京都プロジェクト

MUレーダー紹介映画

24分39秒 / 日本語
2008年10月公開



1984年に完成したMUレーダー（大型大気観測用レーダー）の紹介映画。

企画制作：京都大学超高層電波科学センター、三菱電機／映像制作：DENEI／監修：加藤進（京都大学超高層電波科学センター）／提供：京大生生存圏研究所



京都大学研究資源アーカイブ

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館

TEL : 075-753-3278

E-MAIL : kurra-info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp